

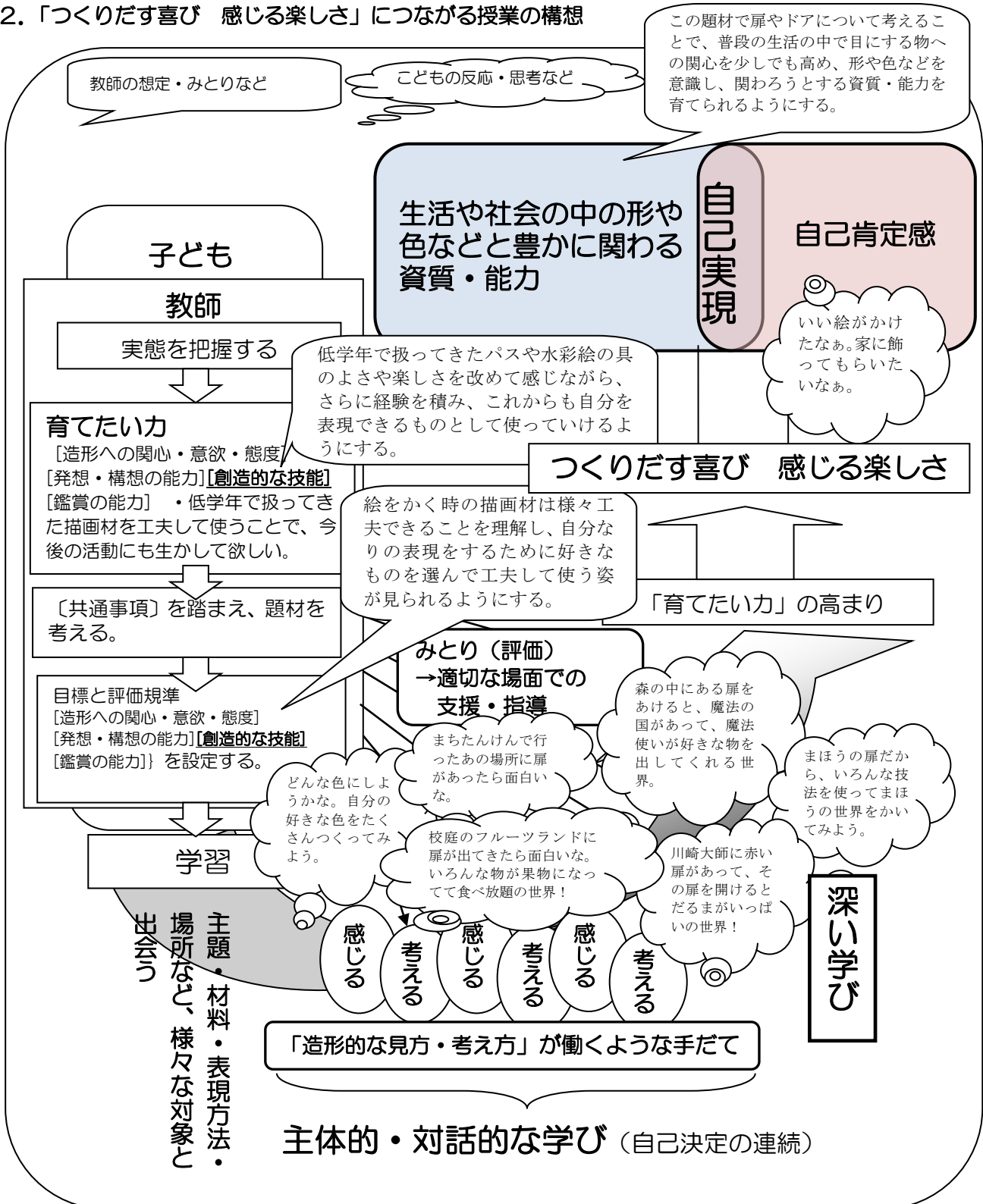
# 第3学年3組 図画工作科学習指導案

指導者 川崎市立川中島小学校

魚住 久美子

1. 題材名 「まほうのとびらをあけると」 A表現(2) 絵に表す 6時間扱い

2. 「つくりだす喜び 感じる楽しさ」につながる授業の構想



### 3. 活動場所 集会室

### 4. 題材観

#### (1) 子どもたちの実態

人と関わることが好きな児童が多く、どんな時でも話し声が聞こえてくる。何か自分で考えたり思いついたりすることがあると声に出さずにはいられず、それを聞いてほしくてたまらない様子である。図工の時間にもその様子が表れており、活動中に何か表すことができると、担任や友達に見て欲しくてどんどん声をかける児童がたくさんいる。その際には、「見て見て」とただ声をかけているだけでなく、自分がつくり出したものが、どんなものなのか、どうしてそうしたのか、どんな思いなのかを話すことができている児童もわりと多くいる。その一方で、自分を表現することに苦手意識をもち、なかなか声に出すことができない児童もかなりいる。個別に声をかけると、自分の考えを伝えることができる児童もいれば、活動に対してどんな思いをもてばよいかわからず悩む児童もいる。

自分の作品について満足し自分なりの表し方について色々と話しながら活動する児童もいる中、こうでなければいけないとか、うまくかきたいという考えをもつ児童が少しずつ表れてきているように感じる。「色・形いいかんじ!」という題材で、水彩絵の具の表し方を色々と試しながら自分で表したいものを表した時には、女子児童の中で花をかく割合が多かった。色々試してできた偶然の色や形から表したいものを考えるというよりも、最初から表したいものを決めて水彩絵の具の技法を試している様子だった。この様子は、「作品といえば何かをかいた方がいい」と考えていたり「うまくやりたいな」と思っていたりするからではないかと推測した。児童がそのように伝えてきたわけではないが、うまくきれいにかきたいからという理由でかくものがいつも決まってしまうことにならないよう、自分なりの表し方に自信をもって活動していけるように、今後様々な声かけをしていく必要があると考えている。

#### (2) 題材と育てたい力

##### **育てたい力：創造的な技能**

3年生のこの時期は、中学年というくくりのはじめの方であり、低学年で経験してきた材料・用具の扱い方や技法などを振り返りながら、これからの活動に取り入れていくよさを体験することがまずは大切であると考えた。そこで、今回の題材では低学年で十分に慣れ親しんできたであろうパスの経験を存分に生かし、また本校では2年生から扱っている水彩絵の具をさらに工夫して使えるような活動にしていく。これまでの経験してきた材料・用具を扱い、それを生かした表し方をすることで、自分の表し方に自信をもち、さらに工夫してみようとするのではないかと考える。用具には、油性ペンも加え選択肢の幅を広げる。これまであまりなじみのない用具をパスや水彩絵の具と組み合わせて絵に表すことで、これまでに経験していなかったような表し方を見つけたり新しい工夫がうまれたりするのではないかと考える。それらのことを通して、創造的な技能を発揮できる資質・能力を育成することができるのではないかと考えている。

本題材では、自分がイメージした扉と扉の向こうの世界について思いついたことを絵に表していくのだが、思いついたことを絵に表すためにパスや水彩絵の具などを使って表し方を工夫していくうちに、「いいこと思いついた!」という経験ができることを期待している。色々な技法を使うことで「こ

んな方法もあったのか」と気付き、かき進めていく中で想像がふくらみ、かこうと決めていたことにさらに工夫が広がっていくようにしていきたい。イメージを膨らませながら、創造的な技能の資質・能力を発揮させ、自分に自信をもって活動していけるようにしていきたい。

- (3)〔共通事項〕(1)ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。  
イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

(4) 造形的な見方・考え方が働くような手立て  
～「つくりだす喜び 感じる楽しさ」につなげるために～

①導入を工夫する。

話好きな児童が多いので、自分の経験から思いついたり考えたりすることがまずできるように、扉とは何かについて自由に話せる時間を確保する。その後、本題材では扉と扉と扉の向こうの世界をかくことを伝える。扉と扉の向こうの世界はつながっているのだということを意識させるために、教師が考えた空想の物語を導入の時間に話す。

②ワークシートを活用する。

扉の形や色などを想像するにあたって具体的にイメージしやすくするために、形や色などをメモできるようにしたり、扉について考えたことメモをしたり、その扉の向こうの世界についてイメージしたことを言葉で書き留めておくことができるようにする。

③パスや水彩絵の具についての技法を掲示する。

前題材「色・形いいかんじ！」での児童の作品から、パスや水彩絵の具の技法が工夫されているところを選び出し、技法例として掲示しておく。

④扉の形について具体例を提示する。

扉はいろいろな形や大きさ、開閉方法があることに気付けるよう、扉の見本を提示する。導入で児童がワークシートにかいた「とびら」「まほうのとびら」からヒントを得て、見本をつくるようにする。

⑤場の工夫。

活動する時は常にグループをつくり、互いが向き合っている状態にする。そのグループはこれまでの児童の活動の様子を参考に、教師が決定する。

自分の考えた扉や扉の向こうの世界をいつでも誰かに話したり、友達の作品をいつでも見ることができたりするようにする。他の児童と会話をしたり作品を見合ったりすることで、何をしようかと迷っている児童の一助となったりさらに自分の作品を工夫してみようと思ったりするきっかけにつながると考える。

⑥子どもの意欲「見て見て」を大切にする。

児童が「見て見て」などと自分の思いを伝えてきた時に、それを板書して記録に残しておくようにする。その発言は「色・形」に関するものなのか「イメージ」に関するもののかなどを教師が判断してわかりやすく板書しておく。そうすることで、全体の活動時間を止めることなく児童の活動内容を紹介することができ、それを他の児童が見ることでもっと工夫してみようと思ったり意欲付けになったり自分もやってみようという意欲につながったりすると考えられる。また、発言した児童が自分の作品を認められてきているという自信につなげることもできると考えられる。

⑦日常的に造形活動ができるようにする。

朝の学級の時間に図工に関することを行ったり、教室に自由に使える画用紙やテープなどを用意したりして、児童が日常的に造形活動ができる環境をつくる。

#### (4) 題材のねらい

○扉と扉の向こうに広がる世界を想像し、自分のイメージを基に表したいことに合わせて表し方を工夫して絵に表す。

### 5. 題材の評価規準 ～ 4つの観点から育てたい力を考える ～

造形への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
○自分の思いを扉や向こうの世界に表すことでつくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとしている。	○自分の体験したこと想像したことから、様々な形や色の扉のよさや面白さ扉の向こうの世界へのイメージを広げ、それを基に表したいことを思いついたり表し方について考えたりしている。	○絵の具やパスを適切に扱うとともに、力加減や水加減で表し方が変わることなどを生かしながら手を十分に働かせ、表したいことに合わせて扉と扉の向こう側をどのように表すか工夫して表している。	○友達作品からよさや面白さを味わったり、自分の見方や感じ方を広げたりしている。

### 6. 準備

[ 教師 ] 画用紙、色画用紙、カッターナイフ、カッターマット、油性ペン、クリップ、写真、絵  
 [ 子ども ] 水彩絵の具一式、パス、はさみ、のり

### 7. 指導と評価計画（6時間扱い）

	◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応	○教師のかかわり・手立て ◎造形的な見方・考え方が働くような手立て	評価規準【 】と 評価方法（ ）
1 次 45 分	扉と扉の向こうの世界へのイメージを広げ、表したいことの表し方について考えよう		
	◇「とびら」と聞いて、思いつくものをワークシートに書く。 ・「家にある。」 ・「お店にある、四角い形」 ・「色は灰色が多い。」  ◇「まほうのとびら」と聞いて思いつく、とびらの形と色をワークシートに書き、発表する。	○扉といわれて、身近なドアや門などを思いつく児童が多くいると考えられる。それらは同じものとするを伝え、壁のようなものがひらくことで、その向こうの世界が広がるのがイメージできるよう、説明する。 ○「自動ドア」「学校の門」など身近なものから「どこでもドア」など創造されたものなどなんでも書き出すよう伝える。 ○書き出した扉の形や色についても考えさせることで、形や色などを意識しながら具体的な扉を思い浮かべられるようにする。 ○「まほうのとびら」と聞いて思いついた形や色をワークシートに書き	【関・意・態】 …自分の思いを扉や向こうの世界に表すことでつくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとしている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>•「にじ色の扉で、おもしろい形」</li> <li>•「クリスマスっぽいやつ。」</li> </ul> <p>◇「まほうのとびら」について担任が考えた話を聞く。</p> <p>◇自分でも話ができそうな「まほうのとびらとその向こうの世界」を書くことを理解し、イメージを膨らませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•「忍者とびらとかおもしろそう」</li> </ul> <p>◇扉の表し方について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•「カッター使うんだ。2年生の時も窓つくってやったなあ。」</li> </ul>	<p>だし、最初の「とびら」で書いた形や色と比べて見る。</p> <p>◎児童が発表したことを板書して、形や色の比較ができるようにし、今回かく「まほうのとびら」は自分なりの扉を工夫してかくことに気付くようにする。</p> <p>○話をすることで、扉と扉の向こうがつながっている面白さを感じられるようにする。</p> <p>○児童は話を考えなければいけないということではなく、どんな世界観なのかをイメージできればよいことを伝える。</p> <p>○日常的にも扉を意識できるように、扉が町のどんなところにあるか話をする。</p> <p>○扉ではないものが扉になってしまったという設定でもよいことを伝える。</p> <p>◎具体的に扉のつくり方がわかるように色々なパターンの扉を見せる。</p>	<p>【発】…自分の体験したこと想像したことから、様々な形や色の扉のよさや面白さ扉の向こうの世界へのイメージを広げ、それを基に表したいことを思いついたり表し方について考えたりしている。(発言・つばやき・ワークシート)</p>
<p>2 次 205 分 本 時</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">       扉と扉の向こうの世界をどのように表すか考え、工夫して表そう     </div> <p>◇扉の向こうの世界の表し方について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•「絵の具とパス両方使おうかな。」</li> <li>•「窓を大きくしたら、すぐ向こうの世界にいけそうだな。」</li> </ul> <p>◇ワークシートを参考にしながら、扉と扉の向こうの世界をえがいていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•「扉は好きな色の黄色い色画用紙にしよう。秘密の扉にして、もようを秘密っぽくしようかな。」</li> <li>•「楽しい感じにしたいから、赤の絵の具でふわっとどどんかいてみよう。」</li> <li>•「クレパスも使ってみようかな。絵の具はうすくぬって、ここは</li> </ul>	<p>○扉と扉の向こうの世界はどちらからかいてもよいし、同時にかき進めてもよいことを伝える。</p> <p>○窓の大きさによって、見える範囲が異なることを伝え、窓の形や大きさを考えられるようにする。</p> <p>◎どの描画材を使ってかいてもよいことを伝え、これまでの児童の作品から技法を工夫している所を例示し、自分の作品にも工夫をしてかくことを意識できるようにする。</p> <p>◎自分の作品に表す前に技法を試すことができる「技法お試しコーナー」を用意する。試してみるという経験を多くして、作品への工夫につなげる。</p>	<p>【創】…絵の具やパスを適切に扱うとともに、力加減や水加減で表し方が変わることを生かしながら手を十分に働かせ、表したいことに合わせて扉と扉の向こう側をどのように表すか工夫して表している。(発言・つばやき・作品)</p>

	クレパスでかいてみよう。」	○児童が自分の作品について伝えてきたことについては、形や色・イメージといった言葉をつけて板書し、全体で共有できるようにする。そうすることで、イメージを膨らませやすくする。	
3 次 20 分	友達の作品からよさや面白さを味わい、自分の見方や感じ方を広げよう		
<p>◇グループで自分の作品について紹介する。</p> <p>・「私のまほうのとびらは、三角の形で楽しいパーティに行ける扉です。だから明るい色の扉にしました。中の世界は、踊ってる人がいたりみんなでご飯を食べる人がいたりします。工夫したところは、扉の色です。絵の具をさぁっと明るい色でぬってみました。楽しい感じになりました。」</p> <p>◇友達の作品について、いいと思うところを伝える。</p> <p>・「扉の向こうの世界がパーティでとても楽しそうです。扉が赤だから明るいと思います。ここのパスをこすってるところがいいなと思いました。」</p>	<p>○グループで紹介する前に全体で全員の作品を見て回れる時間を取り、友達の作品を楽しめるようにする。</p> <p>○作品を紹介する際には扉を開け閉めしながら、扉と扉の向こうの世界について何を表したのか話したり、表した時に形や色について工夫したりしたところを話せるようにする。</p> <p>○友達の作品についていいなと思うところの探し方について、全体の雰囲気や形や色を見たり、パスや水彩絵の具の使い方や工夫されているような所を見たりすることを伝える。そうすることで、造形的な見方・考え方を働かせることができると考える。</p>	<p>【鑑】…友達の作品からよさや面白さを味わったり、自分の見方や感じ方を広げたりしている。 (発言・つぶやき・ワークシート)</p>	

8. 本時の活動（5／6時間 45分）

（1）本時のねらい 絵の具やパスを適切に扱うとともに、力加減や水加減で表し方が変わることなどを生かしながら手を十分に働かせ、表したいことに合わせて扉と扉の向こう側をどのように表すか工夫して表す。

（2）本時の展開

◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応	○教師のかかわり・手立て ◎造形的な見方・考え方が働くような手立て	評価規準【 】と 評価方法（ ）
<p>扉と扉の向こうの世界をどのように表すか考え、工夫して表そう</p>		
<p>◇前時までの活動をふりかえり、友達の作品を全体で見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇さんの絵は色がきれい。絵の具を使うとき水を多くしてるみたい。」</li> <li>・「扉から見えるように工夫してるんだね。」</li> <li>・「今日はクレパスも使ってみようかな。」</li> <li>・「かきたいことが思いついたかもしれない。」</li> </ul> <p>◇扉と扉の向こうの世界をえがく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この世界は何でも食べ放題だから、空いてるところにもっと食べ物をかこうかな。」</li> <li>・「パーティをしている感じになるかな。これは何色にしようかな。」</li> <li>・「扉から見えなくなりそうだからどうしようかな。」</li> </ul> <p>◇自分の作品についてふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「向こうの世界の色を絵の具で工夫しました。」</li> <li>・「楽しい感じになるように明るい色を使ったら、うまくいきました。」</li> </ul>	<p>○扉を開けたり閉めたりしながら、扉と扉の向こうの世界を確かめながらかき進めていくことを確認する。</p> <p>○前時までに出てきた、児童の思いや考えを紹介しながらその児童の作品を見せ、これからさらに自分なりの工夫をしようという意欲づけになるようにする。</p> <p>◎また、その作品で表し方を工夫し形や色などに特徴が表れているところを紹介し、表し方の工夫の参考になるようにする。</p> <p>◎自分の作品に表す前に技法を試すことができる「技法お試しコーナー」を用意する。試してみるという経験を多くして、作品への工夫につなげる。</p> <p>◎児童が自分の作品について伝えてきたことについては称賛し、形や色・イメージといった言葉をつけて板書しておく。そうすることで、自分が何を工夫しているかに気付いたり、友達の工夫を他の児童が参考にしたりすることができる。</p> <p>○児童の表情を見ながら、個別に声をかけ、何を思い考えながら活動をしているのか把握していく。</p> <p>◎図工ノートにふりかえりを書く。うまくいったこといかなかったこと、次にやってみたいことなど活動を具体的に振り返り、形や色なども意識できるようにする。</p>	<p>【関・意・態】 自分の思いを扉や向こうの世界に表すことでつくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。（発言・つぶやき）</p> <p>【創】…絵の具やパスを適切に扱うとともに、力加減や水加減で表し方が変わることなどを生かしながら手を十分に働かせ、表したいことに合わせて扉と扉の向こう側をどのように表すか工夫して表す。（発言・つぶやき・作品）</p>

## 9. 「造形的な見方・考え方」が働くような手立て

- ・「造形的な見方・考え方」を働かせながら、主題・材料・技法と関わることができるようにするために・・・
- ・「造形的な見方・考え方」を働かせながら、作品をつくったりみたりできるようにするために・・・
- ・「造形的な見方・考え方」を身につけ、生活に活かせるようにするために・・・

